

令和2年6月3日

南の風 348

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

347の続きになります。

萩原氏がヘッドコーチに就任してからの成績です。

《2017年4月～2019年7月》

- | | | |
|-------------|--------|------------------|
| ①U19ワールドカップ | 世界第4位 | (2017年 7月 イタリア) |
| ②U16アジアカップ | アジア第2位 | (2017年 10月 インド) |
| ③U17ワールドカップ | 世界第7位 | (2018年 7月 ベラルーシ) |
| ④U18アジアカップ | アジア第2位 | (2018年 10月 インド) |
| ⑤U19ワールドカップ | 世界第8位 | (2019年 7月 バンコク) |

※2019現在、日本女子Uカテゴリー(U19～16)は、世界ランキング第11位です。

それではまず、日本女子アンダーカテゴリー代表(U19～16)が世界との戦いの中で、通用していることを紹介します。そして現在抱えている課題と目標について取り上げます。

＜U19～16日本代表の長所&世界に通用しているところ＞ ※以下、萩原ヘッドの話から

- ☆トランジションの速さ/早さ(スピードときり返しの早さ)
- ☆豊富な運動量
- ☆ドライブのスピード
- ☆ボールの扱いの巧みさ
- ☆粘り強い守り
- ☆「Discipline」:「規律正しい」 ルールを守る
- ☆文句を言わず黙々とやる → 行儀がいい →→→ よすぎる

トランジションの速さ/早さは、Good Fastbreak に表れています。トランジションを5人が意識し、素早く速攻に転じるスピードは大きな武器です。アンダーカテゴリーでは、全得点の30%が速攻からの得点です。またトランジションの際に、ボールを取った選手がすぐガードをさがすのではなく、自分がドリブルで攻めることはたいへん有効な攻めなので推奨しています。

次に粘り強くしつこく、しつこく守るのも日本の特徴です。特にボールマンディフェンスでは、相手のガードにプレッシャーをかけ続けることができます。それによって相手がハーフコートに入る時間を遅らせ、ショットクロックを潰し思うようなオフェンスさせないのです。サイズがある海外の選手と戦う上では、欠かせない戦術になります。ワールドカップでは、ハーフコートに入る時間を10秒位かけさせ、相手に思うようなオフェンスをさせない場面が度々ありました。

ただ安易にディレクションしたり、ラン&ジャンプしたりしてダブルチームに行くと、海外ではやられるリスクが高くなります。粘り強く相手のポイントガードにプレッシャーをかけ続けることが大事なのです。海外のアンダーカテゴリーのポイントガードは、年齢が低ければ低いほどボールスキルやドリブルワークは高くありませんので狙い目になります。

続きは次号にします。